

ヘッドシェル・カートリッジ・リード線の細々した問題 (続)

1 カートリッジをヘッドシェルへ取付ける

これが難題というか、本当にデリケートな作業です。

カートリッジの軸線とヘッドシェルの軸線は一致させたい、つまりヘッドシェルの中央にカートリッジを取付け、かつヘッドシェルに対してカートリッジが傾かないようにしたいのですが、ヘッドシェルにカートリッジを取付けるネジもしくはネジ+ナットが曲者です。最後の一締めでヘッドシェルとカートリッジの関係が微妙にずれてしまいます。

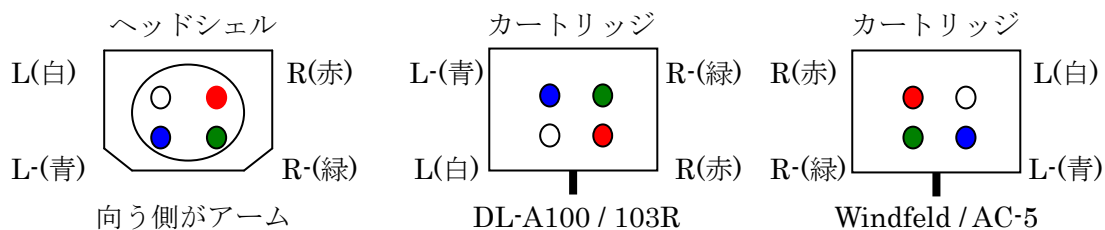
加えて、ネジ+ナットは元々締めにくい。うーむ、どうしたものか？

ある程度強く締めておいて、ずれたヘッドシェルとカートリッジの関係を少し力を入れて修正し、最後に一締めというよりほんの少し締めることで仕上げることにしました。

しかし、一回でうまくいくような作業ではありません。いったん取付けたら二度と外したくないという気持ちになります。

2 リード線の取付けと取り回し

ヘッドシェル側の4端子とカートリッジ側の4端子をリード線で接続するわけですが、これは当然ヘッドシェル側の4端子、つまりユニバーサルアーム側の配線に合わせる必要があります。ところが、これがなかなか簡単ではありません。



たまたまオルトフォン Windfeld とアキュフェーズ AC-5 のピンの配置は同じ、しかもヘッドシェルのピン配置との相性がいいですね。これならリード線の接続も素直だし間違いにくい。

しかし、同じメーカー(DENON)の製品なのに、DL-A100 と DL-103R のピン配置はヘッドシェルのピン配置と上下左右が違います。リード線の接続は全て対角線上になり、つまり4本のリード線が立体交差をすることになります。

なお、リード線はまず黒端子をシェル側に接続し、次にカラー端子をカートリッジ側へ接続します。端子の穴の大きさが違いますのでご注意下さい。

参考：オーディオテクニカの AT-LH18/OCC というシェルはオーバーハングの調節が出来ます。とても良いのですが、組立はそれだけ複雑な作業になります。